



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	A Social-cognitive Model of Environmental Risk Information Seeking in China : Toward A Better Public-oriented Risk Communication [an abstract of dissertation and a summary of dissertation review]
Author(s)	李, 祎惟
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(国際広報メディア)
Dissertation Number	甲第12013号
Issue Date	2015-09-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/60093
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/
Type	doctoral thesis
File Information	Yiwei_Li_review.pdf, 審査の要旨



学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（国際広報メディア）

氏名：李 祎惟

審査委員	主査 教授	伊 藤 直 哉
	副査 教授	山 田 澤 明
	副査 准教授	辻 本 篤

学位論文題名

A Social-cognitive Model of Environmental Risk Information Seeking in China: Toward A Better Public-oriented Risk Communication (中国における環境リスクの社会認知的情報探索モデル —市民主体のリスク・コミュニケーションに向けて—)

本研究は、一般市民のリスク認知構造の生成プロセス、特にリスク情報探索行動モデルに焦点を当て、一般市民のリスク認知プロセスの特徴を描き出し、より効果的なリスク・コミュニケーション戦略のための基盤構築を行うことを目的としている。

科学は、リスク・イベントの発生メカニズムを科学的に明らかにし、発生確率や発生時の被害規模を試算し、リスク・マネジメントの内部に位置づけることにより、そのリスクを客観的に管理しようと試みる。このようなリスク管理の方法は専門家にとっては一般的であるが、専門的知識を有していない一般市民の認識とは大きなギャップが存在している。さらに言えば、あるイベントに関する専門家と一般市民のリスク認知は大きく異なり、時に深刻な社会問題を引き起こしている例も多い。一般市民のリスク認知構造は、個々人の認知的・社会的受容プロセスを経て形成されるのが理由であるが、その生成プロセスは未だ解明され尽くしていないのが実状である。本研究は、この難題に対して、認知科学や社会心理学の方法論を援用し、その成果をリスク・コミュニケーションの実践に活用しようとする実証的研究である。本研究のこのような実践的な意義と目的を考慮し、本論文審査委員会では、以下の2点に関し、質疑とコメントが出された。以下にそのポイントをまとめておく。

まず、中国全土から収集されたサンプルの収集方法、特性、特に4つのリスク・イベントごとにサンプルがクラスター化された方法論も含め、その理由と妥

当性に関しての質問が行われた。この質問に対し、論文執筆者から中国サンプルの特性が説明された。特に広大な国土から人口割付で収集された中国全国サンプルは地域ごとの特性差が大きく、リスク・イベントごとに、大きく異なる地域特性が出たこと、また自然災害に起因するリスクや人工的リスクによる相違も大きく、中国全国サンプルを一つの集団として扱うことの困難さが説明された。これらの地域的特性を考慮した結果、リスク・イベントごとに共通特性を有した地域をまとめ、サンプル全体をグループとし分割・議論することの有効性が説明され、審査委員会は納得した。さらに、中国におけるリスク・イベントに関して分類をすれば、中国全土に共通なリスク・イベント、地域特性を有したリスク・イベント、自然起因のリスク・イベント、人工起因のリスク・イベントに分類されることが説明された。

また、本研究成果の貢献方法に関する質問も審査委員会より複数出された。本研究成果を、どのように具体的にリスク・コミュニケーション戦略に活用するのか。またリスク・コミュニケーションの主体はどのような組織を想定しているのかという質問である。活用方法に関しては、本研究成果の項目をリスク・コミュニケーションの内容項目とルート項目に分け、内容やルートが効果的に機能すると期待される具体策が提案された。また、リスク組織に関しては、中国の現状は政府機関がその機能を担っているが、リスク機関の信頼性が情報の質やリスク検索行動の自己効力感に大きく影響を与える実状を考慮し、将来的にはリスク情報を専門的に発信する政府とは独立した組織の創設可能性も考えられる点が述べられた。

本研究は、認知科学や社会心理の多様なモデルを先行研究とし、精緻なデータ収集と緻密な統計分析の手法を駆使し、高度な実証的研究にまとめ上げている点が大いに評価された。中国のリスク認知研究において、まとまった先行研究が存在していない現状を考慮すれば、本研究がその新たな領域を開拓し、リードする存在となることが期待されている旨、審査委員会から述べられた。

以上のような論文審査委員会における議論経緯を踏まえ、委員会内での慎重な議論を行った結果、本研究の学問的新規性、統計的データ処理の適切性、研究成果の今後の進展可能性などを考慮し、北海道大学博士の学位に相応しい研究内容であることを審査委員会全員一致で了承した。よって、本研究著者は、北海道大学博士（国際広報メディア学）の学位を授与される資格が十二分にあることを本審査委員会は認めるものである。